

《企画書》

提出者 やまおすみ

【タイトル】笑顔の絆～つながり～心の灯

【概要】

本企画は、「絆」をテーマに、絆による笑顔の素晴らしさを感じる内容です。昨今は災害が増えて不安を感じたり、孤独で笑顔になれない人が多いのではないのでしょうか。地震により笑えなくなった状況が、全国、世界から駆けつけてくれた仲間のおかげで笑顔の絆がうまれました。絶望の真っ暗闇に、優しい希望の光が灯されました。どうして笑顔になれたのか、立ち上がるきっかけになったかを具体的にお伝えします。被災者とボランティアの絆。そして家族、ご先祖様、友人、地域、仲間の絆、それぞれの絆についてもお伝えします。子どもから大人まで、笑顔になれる行動により被災地に希望の光が心に灯されました。笑顔の大切さ、絆の大切さを実感できる、未来がワクワクする。つながりを感じて寄り添ってくれる、今後の人生が生きやすくなる、一人でも多くの人が笑顔になれる本でありますように。

【想定する読者ターゲット】

- ① 10代～90代の男女
- ② 孤独を感じて笑顔になりたい人
- ③ 不安を感じて動けない人
- ④ 人の幸せを願っている人

【構成案】

第1章 能登地震で絆がうまれる

- ・全国、世界から被災地にかけてける
- ・他者の喜びが自分の喜び
- ・笑顔になれる魔法

第2章 離れていてもつながっている

- ・現地に来れなくても遠くから応援
- ・出会いと再会、また会おうの約束
- ・能登地域とご先祖様の絆

第3章 心の灯は音楽

- ・人は音楽で感動し寄り添って涙する
- ・音楽は未来の笑顔につながる
- ・地域の人、ボランティアで音楽の絆

第4章 能登地域での祭りの絆

- ・祭りで地域、ボランティアの絆
- ・祭りでみんなの笑顔が増える
- ・ご先祖様から子孫へつながる未来

第5章 笑顔は希望の光

- ・大笑いできる仲間の絆
- ・笑顔で心の灯、希望の光へ
- ・助け合うことで未来が希望へ

【サンプル原稿】

笑顔と絆～つながり～心の灯

第1章 能登地震で絆がうまれる

能登地震により、多くの人が悲しみ、苦しみに苛まれました。能登地域は地震が多い地域でしたが、今回は特に大きい地震でした。発災直後から全国から多くの仲間が駆けつけてくれました。そしてそれぞれの地域で、助け合いがうまれました。日本の原風景である能登で、被災者、自衛隊、市町村の職員、ボランティア、家族、仲間、友人が試行錯誤しながらも、希望につながる未来を信じ活動していました。悲しみの涙が喜びの涙につながりました。災害が起きると、人は一人では生きていけない。助け合って生きていく状況に自然となります。多くの場所で助け合い、絆が生まれました。どんな困難も笑顔という灯は、人の心を照らし続けます。

□発災時は信頼関係が大事

地震で水が手に入らない状況になったら？

地元の人、県や市町村の職員の人、知っている人、信頼できる人からは水を受け取りやすいです。

しかし、NPOなどのボランティア団体、県外から来られた人は文化も言葉も違います。

良い人か悪い人か判断がつかず、わかりません。県外、外国人などが来られる方で中には心ない人がいるのも事実のようです。人を信じていることができる人は助けてもらいやすいです。

人を信じる事ができたら、手に入らない水を手に入れることができ安心できます。未来の笑顔につながります。そして信頼、絆につながり、よろこびにつながります。さらに、よろこびはさらによろこびを運んできます。笑顔でいることでよろこびが増え続けます。まさに笑う門には福来るです。

能登の人は我慢強いです。本当は困ってるのに「助けて」って言えない人が多いです。信頼があれば頼ることができます。信頼とは漢字の通りで、まさに信じて頼むということ。自分を信じている人、大好きな人は他者も信じることができます。素直に「助けて」と言えるのではないのでしょうか。

被災者とボランティアの絆は、少しずつ増えていきました。名前を、お互いに呼んだり、連絡先を交換したり、祭りに参加したり、いつの間にか特別な大好きな人になっていきました。

まるで昔から知っているような不思議なご縁です。人は大好きな人ができた時に絆を感じるのではないのでしょうか。

□ボランティアには全国や世界、中学生から高齢者まで老若男女が参加

学校に行っている子も学校に行かない「不登校」の生徒も被災地で大活躍していました。学校よりも学ぶことが多かったのではないのでしょうか。「生きる力」というのは、いざという時に自分のため、人のために行動できること。目の前の人に喜んでもらうことで喜びがさらに広がり、心からの笑顔へと繋がりました。

そして、この次世代の子たちは次に何か災害が起こったときに、想いをつなぎ行動するでしょう。未来へ希望が広がります。笑顔も増えるでしょう。笑顔という希望の光は永遠です。

ボランティアには男女関係なく高齢者も参加していました。一緒にご飯を作ったり、リフォームをしたり、みんなでご飯を食べたり、お風呂に入って語り合ったりしました。まるで家族みたいな仲間です。

時には、熱い想いがあるがぶつかったりもするけれど、それでも信頼があるからこそ仲直りができます。心と心につながります。信頼関係ができて絆がうまれます。

外国からも能登へ駆けつけてくれました。オーストラリア、韓国などからボランティアに来てくれていました。ベトナム人の女性は避難所で大活躍でした。台湾からは大きな額の義援金の支援もありました。日本、世界中から笑顔が増える心のもった行動がありました。日本が、こんなに多くの国から支援してもらえるのは、先人、ご先祖様のおかげではないのでしょうか。ご先祖様との絆も実感できます。

□日常の中で周りの人との絆を深めるには？

①挨拶をする

近所の人、職場、学校で挨拶をすることで信頼関係がうまれます。目と目があって存在を認識し、お辞儀をする。お互いに相手を認めることになります。

②笑顔で心がける

面白いから笑うのではなく、笑うから面白いことや良いことが起こります。人は笑顔を見ることで安心し承認を感じることができます。

③自分を大切に

自分を大切にすることで、目の前の大切な人を幸せにすることができます。自分に優しくできないと、相手にも優しくできません。優しくすることで人の喜びが自分の喜びのように感じることができます。

④自分を信じる

自分を大好きになり信じることで、相手を信じることができます。信頼関係ができて大切な仲間となります。困った時に助け合えるのが仲間であり絆です。

自分を大切にすることで、いざという時に周りの人を大切にすることができます。周りの大好きな人と笑顔で過ごすことにより苦しい絶望を明るい希望へと変えることができます。本書では、どうして絶望が希望へと変化できたのかをお伝えします。笑顔が増えることで日本中、いや世界中が幸せな世界となると信じています。笑顔の絆は場所も時を超えて永遠です。人生を豊かにし、周りとの喜びをわかちあえることが幸せです。未来の全ての子どもたちが笑顔で幸せでありますように。

[以上となります。よろしくお願いたします]